

「宮崎県ワカメ養殖マニュアル」の紹介

—増養殖部—

2018年10月号にも掲載したとおり、水産試験場では平成26～29年度にワカメ養殖の起業化に向けて、漁業者や普及指導員とともに、現場でのワカメ養殖試験を実施しました。この養殖試験により、種糸の展開方法や展開する水深、場所等の適した条件が明らかとなり、宮崎県におけるワカメ養殖技術を開発することができました。

そして、本試験の結果を基に、宮崎県では初となる本格的なワカメ養殖が、日南市の3地区にて平成30年度よりスタートしました。

今回、ワカメ養殖のさらなる普及や技術の定着・効率化を図るために、これまで行ってきた養殖試験の結果をとりまとめ、「宮崎県ワカメ養殖マニュアル」を作成しましたので、その概要についてご紹介いたします。

○宮崎県ワカメ養殖マニュアル○

「宮崎県ワカメ養殖マニュアル」は、以下の5項目で構成されています。

- 1 ワカメについて
- 2 ワカメ養殖の概要
- 3 ワカメ養殖を行う場合に必要な資材、計画の立て方
- 4 養殖の方法（種糸の展開方法や養殖中の管理方法等）
- 5 ワカメ養殖におけるコストや収益試算の結果

ワカメ養殖にご興味のある方や、これからワカメ養殖に取り組んでみたいという方は、参考にさせていただければと思います。

このマニュアルは、水産試験場のHPに掲載していますので、どなたでも自由にご覧になれます。

掲載元：水試HP→成果報告→普及技術情報→平成30年度→ワカメ養殖技術の開発→宮崎県ワカメ養殖マニュアル

宮崎県ワカメ養殖マニュアル



平成31年3月

宮崎県水産試験場

1 ワカメ養殖に必要な資材類やスケジュール

ワカメの養殖を行う時に、必要なメインの資材類は、以下の5つです。（その他、バケツやハサミ等の作業道具は必要）

- ① 種糸：φ2mm程度のロープにワカメの芽が付着したもの
- ② 幹縄：φ20mm程度のクレモナロープ
- ③ 浮子：幹縄に浮力を付けるためのもの
- ④ 土嚢：幹縄を固定するためのもの
- ⑤ 固定用ロープ：幹縄と土嚢を繋ぐもの

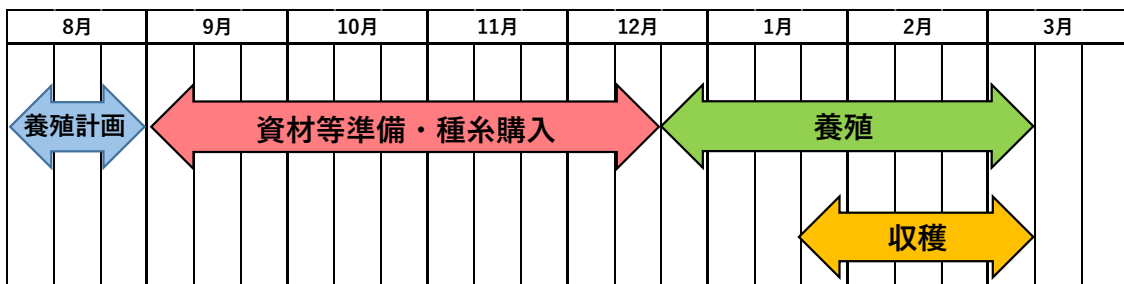


ワカメの種糸

種糸は、宮崎県内で生産している機関がないため、他県産の種糸を購入して利用することになります。種糸は、その年の環境によって質が大きく左右するので、購入先の種糸販売業者と定期的に連絡をとり、種糸の生産状況を確認しておく必要があります。

ワカメ養殖のスケジュールについては、本県沿岸は他県に比べて水温が高いことから、一般的なワカメ養殖に比べると期間が限られてしまいます。

一つの目安として、水温が20℃以下に低下した12月下旬頃から3月上旬頃に養殖を行うことが適当と考えられます。12月下旬頃からの養殖スタートを見越し、8月頃から養殖計画を立て、資材等の準備も進めながら漁場の水温をモニタリングし、20℃を下回ったら養殖開始となります。



ワカメ養殖スケジュールの一例

2 ワカメ種糸の扱いと展開の仕方

種糸到着後は、長期間での保存が難しいため、当日もしくは翌々日頃までには作業を行います。種糸は、5cm～10cm程度の長さに裁断し、幹繩の撚りを戻しながら30cm間隔で挟み込んでいきます。また、種糸は乾燥に弱いので、挟み込みの作業を行う際には、大きめのバケツ等に海水を溜めておき、挟み込みを終えたものから浸しておくといでしょう。

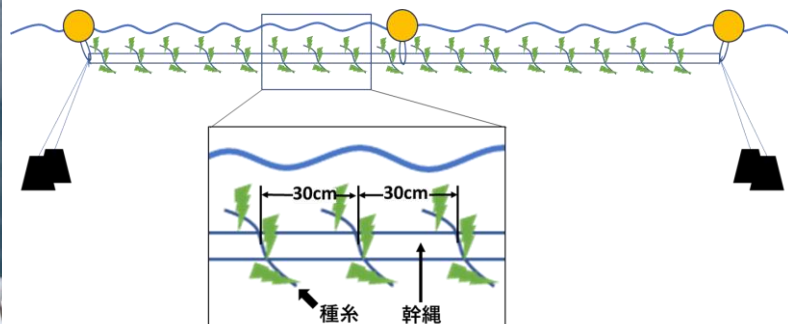
種糸の挟み込みを終えたら、幹繩を展開し本養殖を開始します。展開にあたっては、幹繩がなるべく弛まないように浮子や土嚢で固定し、表層付近に展開することで汚れや付着物を軽減できます。

ワカメの養殖では、展開から収穫までの間、基本的には大きな作業は必要ありませんが、少なくとも1～2週間に1回程度は、生長具合や食害の有無、汚れ等の付着がないかを確認することが大切です。



種糸を挟み込む作業

挟み込み後



ワカメ養殖の展開イメージ

3 ワカメの収穫

養殖開始から約1ヶ月半後には、藻体の大きさは80cm程度になり、収穫可能なサイズになります。さらにその約1ヶ月半後には、藻体は約1mに達し、めかぶもできてきます。宮崎県におけるワカメ養殖では、この1mという大きさが生長の目安になるので、2月中旬～3月上旬頃が収穫の盛期となります。3月上旬以降になると、水温が徐々に上がり始め、植食性魚類による食害のリスクが高くなることや藻体先端の先枯れが起こるため、3月上旬頃までには、収穫を終える必要があります。



収穫したワカメ①



収穫したワカメ②

4 おわりに

今回行ったワカメ養殖試験の結果を基に、平成30年度から日南市の3地区にて県内初のワカメ養殖がスタートしました。初年度は、2地区の合計で約1.3トンが収穫され、直売所や小売店での販売、地域イベント等にて提供されており、売れ行きは好調とのことでした。

今後、本マニュアルの利用により技術の定着・普及が進み、さらに生産規模が拡大すれば、副業として漁業者の収益向上につながることを期待されます。

水産試験場では、今後も漁業者や普及指導員から相談を受けた際にはフォローアップを行いながら、本マニュアルのさらなる充実も図っていきたいと考えていますので、ご意見やご質問がある場合は、該当地区の普及指導員または水産試験場までお問い合わせくださるようお願いいたします。